



令和7年5月27日発行

学校だより

第4号

江戸川区立松江第三中学校

〈 教育 目 標 〉

- 1 素直で明るい、心豊かな生徒を育てる
- 2 自ら進んで、よく学びよく働く生徒を育てる
- 3 責任を重んじ、正義と規律を尊ぶ生徒を育てる

体育祭を終えて

校長 小澤 託

大きな学校行事の1つである体育祭が無事に終わりました。

約2週間の取り組み期間を経て無事に本番を迎え、生徒の躍動する姿を保護者や地域の皆様にご覧いただけたことうれしく思っております。

この2週間、全ての学年の生徒たちは、体育の授業や昼休み、放課後の時間を使ってバトンパスの練習をしてきました。元々、保健体育科の教員ですので、今まで勤務してきた学校では、教員として体育祭（運動会）を担当してきました。そして、観てきました。単純に比較はできないのですが、本校ほどバトンパスの練習に時間を費やしている所は見たことがありません。よく走り、良く練習をしていました。

当日、その成果が発揮された各学年の全員リレー、選抜リレーは手に汗握る展開となり、本当に見ていて楽しかったです。

さて、そのバトンパス。

よく“思いをつなぐ、意志を引き継ぐ”などの例えとして使われます。

今回の体育祭の生徒の様子を見ていて、まさに“思いをつなぐバトンパスの象徴”の全員リレーは興奮しました。そして、“先輩としてのあるべき姿と意志を示す”3年生と“最後の体育祭になる先輩のために、全力を尽くし意志を引き継ぐ”2年生と1年生の気概に心意気を感じました。

転んでも、練習通りのバトンパスができなくても、みんなでカバーし合い、支え合いゴールした経験は、それぞれの励みにもなり、人間性を高めることにつながります。協力や団結、悔しさとか嬉しさ、文字に起こすと簡単に見えますが、懸命に、そして、みんなのために力を尽くしたからこそ感じ、学ぶことができるモノだと私は思います。そして、3年生の体育祭にかける意気込みや取り組む姿勢が2年生・1年生のモデルとなり、次の目標、いわゆる先輩から受け継ぐ伝統となるのです。このバトンパスが、他の行事や来年度も続くことを期待しています。

実は、体育祭の取り組みが始まる時に、全校集会で生徒に伝えました…。

「走るのが苦手な人もいる、走りたくない人もいる、もしかしたら、失敗する人もいるかもしれない。でも決して、その人を責めないで…」と。「苦手でも、走りたくなくても、失敗しても、懸命にやっている人を責めるようなことはするものじゃない…。懸命にやっている人を支える人になれ…」と。

体育祭が終わった後に思いました…。

私が話す以前に、三中の生徒たちはしっかり分かっていました。

そして、意識もせず実践していました。

こんな生徒がたくさんいる三中であることが“喜び”です!!

<たくさんの保護者の皆様にご来場いただきました。>

5月24日（土）に実施しました第73回体育祭に多くの保護者の皆様にご来場いただきました。心より感謝いたします。ありがとうございました。

この日のために準備してきた生徒たちは、本当によく頑張っていたと思います。

これも日頃から本校の教育活動にご理解ご協力をいただいている保護者の皆様のおかげだと思っております。当日、学校評議員をはじめとする多くの来賓の方々にもご来場いただき、感想を頂戴しました。

- 体育祭実行委員の生徒が率先して声を出し、クラスをまとようとする姿や壇上での指示の様子が良い。
- 全員の動きが揃ったラジオ体操は、見ていて気持ちが良い。また、1つ1つの競技に真剣に取り組む様子が素晴らしい。
- 各担当係の生徒が積極的に活動していて、召集の静かにしてください、のボードは、いいアイデアです

などなどお褒めの言葉をいただきました。

次年度に向けて、まだまだ改善点などありますが、今後どうぞよろしく願いいたします。

なお、観覧席に関しては、先日あった立川市の小学校の不審者の事件などもあり、防犯上のことも踏まえ、今後検討していきたいと考えております。

～次なる試練～

体育祭が終わり、生徒はホッとしたと同時に一休みしたところかと思えます。

しかし、来月には1学期末考査が予定されております。1年生にとっては、初めての定期考査となります。3年生にとっては、迫りくる高校受験に向けての最初の考査というところでしょうか…。

各学年の通信などで、すでにお知らせや予定が配布され、保護者の皆様は把握されていると思いますが、中には意図的に考査から逃げようとする生徒もおります。考査から逃げたい気持ちも分かりますが、残念ながら逃げられないのが現実です。

保護者の皆様におかれましては、ぜひお子様に考査にむけて、勉強なさいという“プレッシャー”ではなく、あなたの頑張りが見たいという“エール”を。

勉強しないからできないんだよという“否定”ではなく、やればできるといいう“肯定”を。素敵で温かな言葉のシャワーでお子様を包み込んでください！

よろしく願いいたします。